

り N2-3 症例 (n = 11) と比べ有意に予後良好であった (P < 0.05)。

【まとめ】LPC + GEM による補助化学療法は比較的安全に施行可能であり, N0, N1 症例では予後に寄与している可能性がある。

2 GEM + S-1 療法が奏功し肝切除を施行した肝内胆管癌の 1 例

宗岡 克樹・佐々木正貴・白井 良夫*
若井 俊文*・坂田 純*・神田 循吉**
若林 広行**・畠山 勝義*

新津医療センター病院外科
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野*
新潟薬科大学 薬学部 臨床薬剤
治療学研究室**

GEM + S-1 療法が奏功した肝内胆管癌の 1 症例を経験したので報告する。症例は 61 歳, 男性。近医での US にて肝腫瘍を指摘され, 精査目的で入院した。CT 上肝外側区域に径 6 cm の辺縁不正な腫瘍と内側区域に径 1 cm の娘病巣を認めた。横隔膜への直接浸潤および傍噴門および腹腔動脈根部, 肝門部リンパ節腫大を認め, 根治術不能と判断し化学療法を施行した。レジメンは GEM 1000mg/body biweekly, S-1 80mg/m² day1 ~ 14 投与を 1 クールとした。2 クール後 PR IN となり, 腫瘍マーカーも CEA4.1 → 1.5, CA19-9 14600 → 166 と低下した。6 ヶ月後の CT 上肝外側区域の腫瘍は縮小し, 内側区域の娘病巣は消失した。横隔膜への浸潤も軽度で傍噴門および腹腔動脈根部, 肝門部リンパ節腫大も縮小した。化学療法開始後 7 ヶ月後に開腹手術を施行した。腹膜転移を認めたが, 術中迅速病理検査で癌細胞はなく, 肝左葉切除, 肝外胆管切除を含むリンパ節郭清, および右肝管空腸吻合術を施行した。GEM + S-1 療法が奏功した肝内胆管癌の 1 例を経験したので報告した。

3 消化器外科術後頻脈性不整脈に対する薬剤治療の効果

皆川 昌広*・**・黒崎 功*
大矢 洋*・**・遠藤 裕**
畠山 勝義*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野*
同 救命救急医学分野**

【はじめに】頻脈性不整脈 (TC) はよくみられる術後合併症の一つである。今回, 消化器外科術後 TC 症例に対する薬剤治療の効果を検討してみた。

【方法】消化器外科術後に生じた頻脈性不整脈に対しジゴキシン (D)・ベラパミル (V)・ランジオロール (L) のいずれかを使用した症例のべ 37 例を対象とし, 背景因子, 効果について比較検討を行った。

【結果】73.6% に高血圧・心疾患の合併がみられた。各薬剤の有効率は D, V, L それぞれ 28.5%, 73.3%, 85.7% であり, 3 時間以内の再発率は 50%, 27.2%, 8.3% であった。

【まとめ】ランジオロールは術後 TC には有効率・再発率から, 他剤に勝っている。無効例は, 重篤な合併症の発生に注意する必要がある。

Session II 『症例』

4 無黄疸で発見された胆管癌の 1 症例

田邊 昭子・阿部 要一・山田 明
佐藤 秀一*・摺木 陽久*・東海林俊之*
津田 晶子**・岩瀬 三哉***

木戸病院外科
同 消化器内科*
同 糖尿病内科**
新潟大学医学部保健学科学科病態検査学***

症例は, 75 歳男性。当院内科にて, 平成 2 年 4 月より, 糖尿病の治療目的に外来通院されていた。腹痛精査目的に消化管精査, 腫瘍マーカーの検索を定期的に follow up されており, 黄疸, 肝胆道系酵素の異常が認められなかったが, CA19-9